



皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は城北信用金庫に格別のご高配を賜り、まことにありがとうございます。

本年も、当金庫についてのご理解を一層深めていただくために、このディスクロージャー誌を作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

## 経営環境認識および第7次中期経営計画について 業務革新を進め、「コンサルティング機能の充実」を図ってまいります

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の「5類感染症」移行に伴い、社会・経済活動の正常化を目指す動きが強まりました。コロナ禍からの反動もあり、日経平均株価は約34年ぶりに過去最高値を更新、年度終盤には、平成28年2月から続いてきた日本銀行によるマイナス金利政策の解除が決定され、デフレ脱却に向けた期待も高まりました。

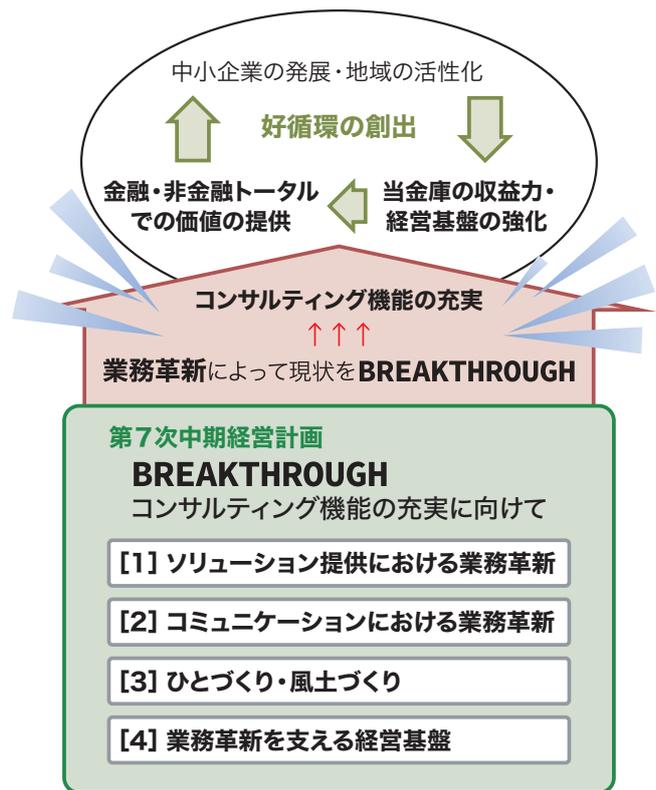
しかし、地域の事業者の皆さまを取り巻く環境には、原材料価格の高騰や人件費の上昇、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、日米金利差に着目した急速な円安など、企業収益を圧迫する要因が複数生じており、先行きは依然として不透明な状況です。

当金庫におきましても、地域の将来の展望に少しでも貢献できますよう、きめ細かなサポートに努めておりますが、お取引先の経営課題を幅広くキャッチし、解決に向けて尽力し、結果にもご満足いただくためには、金庫としてより一層の機能強化が必要であると考えております。

そのため、現在取り組んでおります第7次中期経営計画では、「BREAKTHROUGH（障壁の突破）」を合言葉に、業務のあり方を見直しつつ、コンサルティング機能の充実に向けた態勢整備を進めております。

- 地域の皆さまとの間に、何でも相談して下さるような懇意な関係を数多く築くこと。
- 懇意な関係のなかで伺ったお話をつなぎ合わせ、お客さまの課題やニーズを深く理解すること。
- それらを踏まえて、質の高い独自サービスを開発し、最適な組み合わせでご提供すること。
- 地域でのつながりをもとに、さまざまな角度から地域活性化に取り組むこと。

これらをより高いレベルで実行できますよう、業務革新を図りたいと考えております。



## 令和5年度の取り組み

### 第7次中期経営計画の中間年度として、さまざまな形で BREAKTHROUGH に挑みました

#### ●ソリューション提供における取り組み

お客さまの経営課題がますます多様化するなか、当金庫では、行政や外部専門家との連携を強化するとともに、ご提案内容の効果検証なども行いながら、息の長い伴走支援が実現できますよう努めております。

その一環として、令和5年6月に東京都北区と「中小企業の支援に関する『業務連携・協働に関する覚書』」を締結し、覚書に基づき、職員を「北区ビジネスアドバイザー」として派遣しています。同アドバイザーは、事業者の皆さまからの経営相談をお受けするだけでなく、各種ソリューションのご提案後も、事業所や工場を訪問するなど継続的なアフターフォローに取り組んでいます。

#### ●コミュニケーション強化に向けた取り組み

お客さまとのコミュニケーションをより一層深めることができますよう、店内レイアウトにも新たな試みを取り入れております。8月にリニューアルオープンした梶原支店では、後方事務スペースを極小化してロビーを広くとり、採光や動線を確認するとともに、お客さまに寄り添った対応ができるようカウンターレスの店内レイアウトを採用しました。店内のデジタルサイネージではアスリート職員による体操動画なども放映し、待ち時間に楽しんでいただけるような工夫も凝らしています。

他方、パブリックリレーションの面では、北区・飛鳥山で晩年を過ごした渋沢栄一翁が新紙幣の肖像となることから、北区で展開されている「新一万円札発行カウントダウンプロジェクト」の一員として、地域の皆さまとともにさまざまなイベントを企画・運営しました。また、期初に本部組織を一部改正し、新組織「メディアラボ」を立ち上げました。デジタルネイティブ以降の若い世代にもリーチしていけるよう、新たなメディアやコンテンツの企画・開発に取り組んでおりますが、11月にはその第一弾として、地域密着インターネットラジオ局「しぶさわくんFM」を開局、地域の魅力を広く、熱く発信しています。

取り組みの詳細は、6ページ以降にも記載しておりますのでぜひご覧ください。



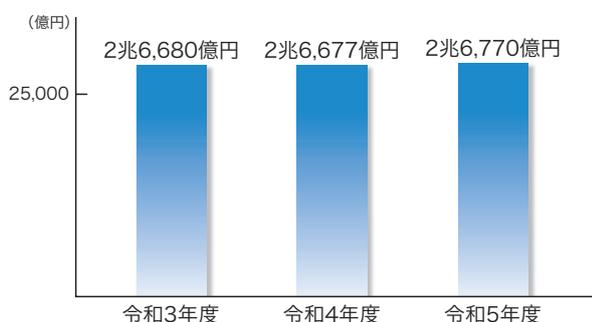
## 令和5年度の業績概況

### 業務純益は56億円、経常利益は66億円を計上いたしました

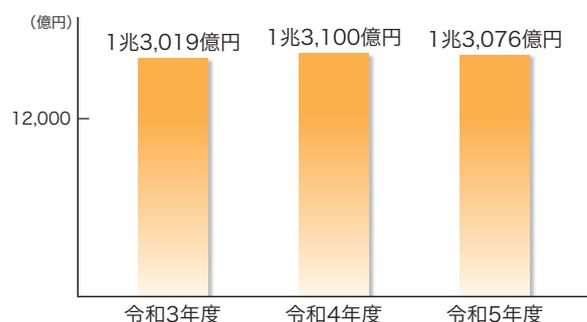
このような取り組みを通じ、広く地域の皆さまにお取り引きいただきました結果、令和5年度決算におきましては、期末の預積金残高2兆6,770億円、貸出金残高1兆3,076億円となりました。損益につきましては、コストの増加要因が多い状況ではございましたが、貸出金利息や、各種手数料などの役務収益は前年度対比で増加となり、業務純益は56億円、経常利益は66億円と期初の計画を上回る利益を計上いたしました。なお、普通出資に対する配当率は2%とさせていただきます。

年度を通じまして、皆さまからさまざまなお力添えを賜りましたことに深く感謝申し上げます。

預積金残高の推移



貸出金残高の推移



## 今後の課題と展望

### 経営環境の変化に対応しつつ、一層の機能強化に注力してまいります

さて、これまでの取り組みに多くの手ごたえを感じる一方、今後に向けた課題もみえております。

前述しましたように、事業者の皆さまを取り巻く環境はなお不透明な状況であり、他方、私ども信用金庫の経営環境にも、金融政策の枠組みの見直しに伴い大きな変化が予想されます。環境が激変するなかでも、引き続き皆さまから「頼れる地域のプラットフォーマー」としてご評価いただけますよう、「トラスト・リンケージ」をはじめとするサービスラインアップの充実を図りつつ、何でもご相談いただけるような懇意な関係の構築に、改めて注力したいと考えております。

さらに、経営基盤の強化に向けて下記の課題にも継続的に取り組んでまいります。

- 会員の皆さまの利益に資するよう、収益力の向上と自己資本の充実を図ります。
- 統合的リスク管理態勢、AML/CFT 態勢、コンプライアンス・リスク管理態勢の維持・強化に努めます。
- 顧客保護等管理態勢の強化を図り、苦情・相談を活かした業務改善に努めます。
- より多くの会員・利用者の皆さまの声が経営に反映される態勢の構築を目指します。

当金庫はこれからも、会員の皆さまはじめ地域の皆さまのための信用金庫として、さらなるサービスの向上と機能強化に全力を尽くしてまいります。

より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

令和6年7月

理事長 大前 孝太郎